

江戸時代の村と現代⑥

恭儉舎は、大島有隣・関口保宣・藤城吉右衛門等が中心となって、大島村（現杉戸町大字大島）に建てた庶民教育のための施設です。地元大島村から、大島有隣・関口保宣という二人の傑出した人物が輩出したからこそその施設ともいえますが、逆に言えば、偉人を輩出するだけの土壌が、その地域には既にあったともいえます。

事実、大島村に石門心学が導入された端緒は、安永八年（一七七九）、江戸長谷川町の伊勢屋孫兵衛が来村し、それを講じたことです。「抑道之発端は、安永八己亥の頃、東都長谷川町伊勢屋孫兵衛と云う仁、当邑に至りて心学を教諭す、則ち当所の産なり（原漢文）」という記述が、史料（「御祭儀奇特連名簿」）にあります。

ここでいう道とは石門心学のことですが、興味深いのは、伊勢屋孫兵衛が、当所すなわち大島村の生まれであるという記述です。実は、この伊勢屋孫兵衛は、恭儉舎設立発起人の一人である藤城吉右衛門の叔父にあたる人物であると考えられています（藤城家過去帳ほか）。つまり、伊勢屋孫兵衛は、大島村の藤城家から江戸に出たということになり、故

郷大島村の心学普及に尽力した先駆的人物ということになります。

どんなきっかけで、孫兵衛が心学を学びだしたのかは、残念ながらわかりません。想像を逞しくすれば、江戸での生業が、孫兵衛と心学とを結び付けたとも考えられます。

また、穿った見方をすれば、孫兵衛がなんの伝手もなく、江戸長谷川町に出たり、石門心学を学んだりするとも考えられませんが、それ以前においても石門心学と大島村地域とを結ぶ何らかの素地があったのかもしれない。

いずれにしても、石門心学普及以前から、当該地域の教育力の高さが窺い知れるのではないのでしょうか。（つづく）



▲大島有隣肖像（大島得男氏 蔵）

（社会教育課 町史・文化財担当編）

Enjoy Sports ★ スポーツ協会 Vol.9

杉戸町ソフトテニス連盟

杉戸町ソフトテニス連盟の沿革

当連盟は、昭和50年頃からソフトテニス愛好会会員が技術向上および心身ともに健全な若者を育てることを目標に発足しました。

過去10年間の主な実績

- ◆夏全国大会出場ペア数（連盟主催）
13ペア（杉戸ジュニア11、高野ジュニア2）
※団体優勝2回、準優勝3回、3位1回
- ◆関東大会出場ペア数（連盟主催）
31ペア（杉戸ジュニア24、高野ジュニア7）

PRポイント

杉戸町のジュニアソフトテニスの歴史は古く、全国で活躍する選手も数多く育成してきました。指導は技術力だけでなく困難に打ち勝つ心を育てることを大切にしています。低学年から始めても体への負担は少なく、カー杯ボールを打つ楽しさが醍醐味です。

※当連盟は、各大会の日程や結果など、様々な情報をホームページ（右QRコード）にてお知らせしています。

問合せ 杉戸町スポーツ協会事務局
社会教育課 スポーツ振興担当 内線493



登録少年団（令和3年度）

- ・杉戸ジュニアテニス
- ・高野ジュニアソフトテニスクラブ



杉戸ジュニア



高野ジュニア

▶杉戸町ソフトテニス連盟についての問合せ
杉戸ジュニアテニススポーツ少年団団長 大塚 ☎090 (5811) 0989
高野ジュニアソフトテニスクラブ団長 藤森 ☎(32) 5701



ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用しました。

杉戸町
ホームページ



メール配信
すぎめー



広報スマホ版
マチイロ

